明日を生きていく人のために
そしてあの日 銃身にさらされた
愛する人のために

第二次世界大戦下、一万五千人の将校が
忽然と行方不明になった――。
ポーランドの人々が半世紀にわたり
沈黙をしいられた知られざる真実。
巨匠ワイダが万感の思いで世界に放つ。

２００８年アカデミー賞外国語映画賞ノミネート作品
２００８年ベルリン国際映画祭正式出品作品
２００９年東京国際女性映画祭参加作品
２００７年／ポーランド映画／カラー

アンジェイ・ワイダ監督

カティンの森

監督・脚本：アンジェイ・ワイダ　出演：マヤ・オスタシェフスカ、アルトゥル・ジミイェフスキ
2007年／ポーランド映画／122分／R-15／ドルビーSRD／シネスコ／ポーランド語・ドイツ語・ロシア語／字幕翻訳：久山宏一　原作：アンジェイ・ムラルチク「カティンの森」集英社文庫
後援：駐日ポーランド共和国大使館／「日本・ポーランド国交樹立90周年」認定事業　提供：ニューセレクト　配給：アルバトロス・フィルム　www.katyn-movie.com

世界の名画を見る会 vol.32　企画・構成 高野悦子

●14:00～　講演：**大竹 洋子**（東京国際女性映画祭ディレクター）
「『カティンの森』とワイダ監督」

●15:00～　上映：映画「**カティンの森**」
（2007年 / ポーランド /122分）R15

●この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
●中学生以下の方の入場はご遠慮願います。
●公演中の一時保育（無料）を希望される方は事前にご連絡ください。

■プレイガイド■
コラーレ / 黒部メルシー / 魚津サンプラザ / 入善コスモホール
アーツナビ（新川文化ホール・富山県民会館・富山県教育文化会館・富山県高岡文化ホール）

2011年4月24日(日) 開場13:30　開演14:00

黒部市国際文化センター**コラーレ**（カーターホール）

全席指定	一般	1,500円	
	高校生	500円	コラーレでのみ発売
	障がい者手帳をお持ちの方	1,000円	コラーレでのみ発売

コラーレ　www.colare.jp/
富山県黒部市三日市20番地
TEL.0765-57-1201　FAX.0765-57-1207
開館時間：9：00～22：30（土曜～23：00）
毎週水曜休館

主　催●財団法人黒部市国際文化センター
共　催●北日本新聞社　北日本放送
公　演●黒部市　黒部市教育委員会

アンジェイ・ワイダ監督 カティンの森

2008年アカデミー賞外国語映画賞ノミネート作品
2008年ベルリン国際映画祭正式出品作品　2009年東京国際女性映画祭参加作品

監督・脚本:アンジェイ・ワイダ「灰とダイヤモンド」「地下水道」 出演:マヤ・オスタシェフスカ、アルトゥル・ジミイェフスキ
2007年／ポーランド映画／122分／R-15／ドルビーSRD／シネスコ／ポーランド語・ドイツ語・ロシア語／字幕翻訳:久山宏一
原作:アンジェイ・ムラルチク「カティンの森」集英社文庫　後援:ポーランド共和国大使館／「日本・ポーランド国交樹立90周年」認定事業
提供:ニューセレクト　配給:アルバトロス・フィルム　www.katyn-movie.com

第二次世界大戦開戦から70年、東欧民主化から20年、封印された歴史の真実が明かされる。巨匠アンジェイ・ワイダが生涯をかけた願い―ついに「カティンの森」が映像に刻まれた。

映画「カティンの森」は、ポーランドの巨匠アンジェイ・ワイダ監督の数ある作品のうちで、最も重要であり、長らく完成が待たれていた作品である。

本作はワイダ監督の両親に捧げられている。ワイダ監督の父親は、第二次世界大戦中の1940年春、「カティンの森」事件で他のポーランド将校とともにソ連軍に虐殺され、母親も夫の帰還の望みが失われていくなかで亡くなった。監督デビュー間もない1950年代半ばに事件の真相を知り、自ら映画化を強く熱望していたが、冷戦下にタブーとされたこの事件は、描くことはもとより語ることすら叶わなかった。しかし冷戦の崩壊とともに、少しずつ真実が公にされ始め、事件から70年近くの歳月がたった今日、ついに積年の思いのこもった映画が完成した。

旧ソ連領カティン。その美しく静かな森に、ポーランドの最も過酷な時代が秘められている。

ポーランドは1939年９月１日ドイツに、17日ソ連に侵略された。そしてソ連の捕虜になった約15,000人のポーランド人将校が行方不明になる。当初は謎とされていたが、1943年春、カティンで彼らの数千人の遺体が発見され、事件が明らかになった。ドイツはソ連の仕業としたが、ソ連は否定し、ドイツによる犯罪として糾弾した。

戦後、ソ連の衛星国となったポーランドでは、カティンについて語ることは厳しく禁じられていたが、1989年秋、ポーランドの雑誌が、虐殺はソ連軍によるものであると、その証拠を掲載。翌1990年、ソ連政府は内務人民委員部(後のKGB)による犯罪であることを認め、その２年後、ロシアのエリツィン大統領はスターリンが直接署名した命令書によって行われたことを言明した。

第二次世界大戦下、引き裂かれ、翻弄される家族の運命。現代への変わることのないメッセージ。

映画は、実際に遺された日記や手紙をもとに、「カティンの森」事件の真実を、捕らえられた将校たちの姿と、彼らの帰還を待つ家族の姿を通して描く。将校たちの、国家への忠誠と家族への愛の狭間で引き裂かれる思い。ひとすじの希望をたよりに、耐え忍び、生きる家族たちの不安と恐怖。

夫の帰還を信じる妻、父を想う娘、真実を叫び続けることで兄の死に報いようとする妹……。幾重にも語られる人々の運命は、戦争によって翻弄され、たがいに交錯し、交わり合う。そしてラストシーンで明かされる真実の衝撃――。

70年の歳月を経ても、「事件」の傷は決して癒えてはいない。それは過去のことではない。現代に生きる私たちに、変わることなく鋭く重いメッセージを発している。